

キャスター、司会者としてメディア等で活躍中の桑原りささん。JOES Davos Next 2022では、山中伸弥教授による基調講演の司会という大役を担うだけでなく、グループワークの大学生ファシリテーターの指導役としても活躍を期待されています。

「私もわくわくしています」と言う桑原さんは、「このチャンスを大いに活用してほしい」と子どもたちと呼びかけます。（只木良枝）



第5回
JOES Davos Nextを語る
フリーキャスター
桑原りささん

■■■■
Davos Nextの最初の印象は
どうでしたか？

旧知の辻村清行さん（Davos Next運営委員）から構想を聞いてまず「うらやましいー」と思いました。私が子どもころは、雑誌の文通コーナーで知り合った遠くの街の子とのやり取りでドキドキワクワクしていました。それがいまは、海外に住んでいる人とリアルタイムで交流できるんですから。

山中伸弥先生は、自分のやりたいたいことを見つけて追求することの大切さについて、折りに触れて発言されています。私もまったく同

■■■■
桑原さんの役割は？

九月の基調講演では、モデレーターとして山中先生と参加者をつなぎます。私が間に入らなくてもいいくらい、話が弾めばいいなと思っています。

直接ことばを交わすことから受け取るエネルギーって、すごく大きいですよ。子どもたちが将来くじけそうになったとき、「あのときこんなことばをかけていたんだな。もうちょっとがんばろう」と思い出すことがあるかもしれません。

グループワークの運営を担うの

■■■■
世界中の子どもたちに、
ひとことお願いします。

そのことの大切さを山中先生から直接お話しただけは、子どもたちにとっても、将来の日本にとってもきつと大きな財産になるはずですよ。

私は社会人を経験してから、ニューヨークの大学院に留学して国際関係を学びました。一〇〇カ国近くから来ている学生たちの多様な価値観から多くの刺激を受けた経験が、私のその後の人生を変えました。そして、人と人がつながることこそが世界平和への道だと思ふようになりました。友人のいる国の戦争は自分ごとになり、全力で阻止したくなりますよね。そういう思いが繋がれば、争いは減っていくと信じています。

いま海外にいる子どもたちは、日々たいへんなこともあるかと思えます。でも、その貴重な環境を楽しみながら、自分の心が喜ぶことに忠実に生きてほしい。一瞬一瞬を楽しんで、自分らしい人生を見つけてほしいと思っています。

私は、帰国子女等の大学生たちです。私はグループワークの場づくりをサポートしていきますが、ファシリテーションの技術を教えるのではなく、まず模範的にやってみてもらい、それに対して場を盛り上げるための具体的なアドバイスをしようと考えています。